

地域協働学校だより No.10

令和2年2月26日
新宿区立市谷小学校
地域協働学校運営協議会

「地域協働学校運営協議会」からのご報告です。4年生の防災マップ作りと、5年生の牛込第一中学校との小中連携授業についてご紹介させていただきます。

地域防災マップ作り：防災講演会と町歩き（4年生）

4年生の総合的な学習「地域の防災」の理解を深めるため、1月25日に牛込消防団の志村厚幸さんから地域の防災についてお話を伺いました。それを受けて2月7日に4年生児童が小グループに分かれて、地域の方々の引率のもと実際に地域を歩き、災害の際に危険な場所や役立つものの設置場所を確認しました。

地域の防災について：ゲストティーチャーの授業

地域の消防団員である志村さんは、初めに、過去に日本に起きた大きな3つの地震（関東大震災・阪神淡路大震災・東日本大震災）の被害のことを話されました。阪神淡路大震災の際は倒壊した建物や、倒れた家具による圧死で死者が多数出ました。東日本大震災では津波により命を落とした方が多くいました。今後30年以内に70%の確率で起きると言われる首都直下型地震でも全壊したり火災で焼失したりする建物が多くあると予想され、火災により死者が多く出るかもしれません。ビデオで実際の地震の画像を見た後、具体的に新宿区の牛込地区ではこういった危険があるか、どのような準備が必要かというお話になりました。



ここ牛込地区は比較的地盤が固い地域です。しかし、老朽化した木造の建物や消防車・救急車の入れない狭い路地も多くあるので、地震に伴う火災が心配されます。坂の多い地域ですから土砂崩れやブロック塀の倒壊があるかもしれません。被害を少しでも少なくする「減災」のための「防災マップ作り」のために、次の点に気を付けて町を見るようアドバイスがありました。①ブロック塀は大丈夫か②万年塀は傾いていないか③崖は崩れてこないか④電柱は傾いていないか⑤電柱上のトランスは落ちないか⑥消火器の設置場所はどこか⑦AEDの設置場所はどこか⑧階段のある場所はどこか⑨避難所はどこか、など。

志村さんは、東日本大震災の時は被災した方たちを励ましに東北へ行かれたそうです。スクールコーディネーターの津吹さんからは、阪神淡路大震災の後、新宿区と地域の人々が早稲田大学と共同で地震が起きた場合を想定したマップを作り、今後より安全な町作りができるよう（救急車両が入れる道にするな

ど）計画を立てていることを教えてもらいました。新宿区として、減災とすぐに動ける体制づくりを目指しているんですね。

防災マップ作りで町歩き

2月7日の2・3校時は、4年生が12グループに分かれて町歩きをし、災害時に気を付ける点を見て回りました。当日は地域の方やPTAの方々あわせて15人が引率に協力してくださり、注目すべき点をアドバイスしてくださいました。



児童たちは消火器や避難所、一時集合場所の位置を地図に書き込んだり、ひびの入った塀がないかなど注意深く観察したりしました。防災マップの完成が楽しみです。



5 年生が中学校の先生の授業を体験：牛込第一中学校との小中連携日

2月19日の小中連携日には牛込第一中学校の先生方にお越しいただき、市谷小5年生に国語・社会・体育の授業をしていただきました。

5年1組は染矢先生による国語の授業で俳句を学びました。「有季定型」などといった難しい言葉も出てきましたが、児童たちの一生懸命工夫する姿が見られました。2組は窪田先生の社会科の授業でしたが、初めに火縄銃を見せていただき、とても驚いていました。その後、中学校で学ぶ地理・歴史・公民の3分野からそれぞれ1つずつテーマが出され（寒冷地で高床式住宅がある理由は？花火大会が中止になるとコンビニおにぎりが値引きされるのはなぜ？など）児童たちがグループごとに意見を発表する姿が見られました。3組は体育館で松井先生の体育の授業を受け、体幹を作る運動から、走ったり、ケンケンしたり、スキップしたりいろいろな体の動かし方を学習しました。



牛込一中の先生方からは、「とても素直でまじめな生徒たちですね。」「グループで考えたり発表したりすることに慣れていて素晴らしい。」と大変褒めていただきました。児童たちも将来の中学校での勉強に興味があったのではないのでしょうか。